



玉川学園・南大谷地区

“ 学校、駅、地名が一体化 ”



南大谷村は、古くは本町田村に属していましたが、分立して一村となった地域です。明治初期までの村名は「大谷村」でしたが、明治11(1878)年に郡区町村制が敷かれて南多摩郡に属した際、同郡内の八王子にも同名の大谷村があったため、それよりも南にあったことから「南大谷村」と称するようになりました。

玉川学園地区は、小原國芳が本町田の土地を購入し、昭和4(1929)年に学園を創立すると共に宅地分譲にあて、玉川学園駅も開設しました。昭和42(1967)年の表示改正で、本町田・南大谷・成瀬・金井の一部が「玉川学園」になりました。学園名、駅名、地名が統一されているのは他に例を見ません。



南大谷天神社

A 京塚

きょうづか

小田急小田原線のトンネルの上辺りに「京塚」と呼ばれていた場所があります。「キョウヅカ」(経塚)は一般的には経文を収めた経筒を埋めた塚を言います。一方、横浜市・川崎市・町田市の3市の接点になっている玉川大キャンパス内にある3市接点のメダル所であり、大学構内の道路にはそれを示すメダルが埋め込まれています。古くは、奈良村、岡上村、本町田村の3村の接点の地でもありました。そのためキョウヅカは「境塚」で、3村の境を示す境塚(サカイヅカ)のあった所とみられます。



玉川大キャンパス内にある3市接点のメダル

C 舟橋

ふなばし

『新編武蔵風土記稿』にある「大谷村」の項には、舟橋について「中央なり」と記されていますが、実際は南に寄った所がそう呼ばれていました。「舟橋」という橋があったことによると考えられます。南大谷中学校裏の恩田川にかかる、現在は「坂下橋」と呼ばれている橋の辺りにあったと推測されます。舟橋とは、舟を並べてその上に板を渡し、橋としたものをいいます。

B 芝生

しばお

かつては、現在の玉川学園前駅を中心とした周辺一帯が広く「芝生」と呼ばれていました。その名の通り、草や林に覆われた丘陵地で人家はほとんどありませんでした。現在は落ち着いた住宅地に整備されています。



芝生と呼ばれた玉川学園前駅周辺



忠生地区

“ 忠臣の武士を称える美名 ”



明治時代の町村制施行により、上下小山田・図師・木曾・根岸・山崎の六村が合併して忠生村が誕生しました。新たな村名を決めるにあたり「木曾」「小山田」などの案が挙げられました。しかし、南北朝時代の湊川の合戦で、新田義貞の身代わりで戦死した忠臣・小山田高家の出生地であるという故事から、「忠生」村に決まりました。明治期の漢学者で下小山田村の若林有信の発案でした。

C がにやら谷戸

広い湿地が奥まで続く谷戸の地形で、谷戸池には湧水があり、一帯は「ガニヤラ谷(やと)」と呼ばれていました。『新編武蔵風土記稿』にも「蟹原」と記載されており、「サワガニのいる原っぱ」が地名の由来であると推測されます。現在は忠生公園となり、谷戸の自然が保存されています。



忠生公園の自然観察園

A 図師

ずし

白山権現別当の大蔵院が堂の修復を領主に願い出た時、社地の景色をことごとく図にして提出しました。領主はその図がとてもよくかけているのに感激し、「図師の法印」との称号を与えて白山社領を寄付しました。そのためこの地を図師と呼ぶようになったと伝えられています。



芝溝街道の図師宿

名所散策

忠生がにやら自然館(忠生公園内)

忠生公園の自然についての案内や展示、また自然観察会や小中学生の環境教育に関する校外学習にも利用されています。



忠生がにやら自然館

町田市山崎町1804-1 042-792-1326

B 馬駈

まがけ

付近は狭い谷で急な斜面なので崖地に由来する地名と推測されます。一方、鎌倉幕府の御家人だった小山田氏の支配地で、調練場・牧場・牢場・的場など馬に関連する地名が多くあることから、「馬駈」の地名も馬を走らせたことにちなんでいるとも伝えられています。



馬駈の近くにあるかぶと塚公園